

令和 7年 4月 21日

令和6年度寄附講座活動実績報告書

寄附講座名：分子脳病態解析学講座

所 属 長： 夜 久 均

1 寄附講座の目的

重症筋無力症などの神経難病を対象に、発症・病態進展機序を解明するための研究を行うとともに、これらの疾患における診断・治療法を探索する。

2 報告年度に係る取組状況

神経免疫疾患専門外来および脳神経内科入院患者の診療、重症筋無力症における新規の電気生理学的診断法の開発、病棟医長として神経疾患診療を担う次世代の医師の教育育成。

3 報告年度における著書、論文、学会発表、講演、研究助成等の実績

[学会発表]

1. 早期速効性治療として抗胎児性Fc受容体抗体製剤を用いた全身型重症筋無力症の一例. 安永隆晟, 小島雄太, 村田翔平, 吉田舞花, 北大路隆正, 田中瑛次郎, 尾原知行, 笠井 高士. 第244回日本内科学会近畿地方会. 2024年6月29日. 京都.
2. 速効性治療としてEfgartigimodを導入した全身型重症筋無力症の3症例の検討. 石井 健太, 小島 雄太, 西田有騎, 吉田舞花, 村田 翔平, 北大路 隆正, 田中瑛次郎, 笠井高士. 第36回日本神経免疫学会学術集会. 2024年10月3日. 富山.

[講演]

1. 京都府下における神経免疫疾患診療連携について考える．京都北部
Neuroimmunology Meeting. 2024年6月27日．福知山．
2. 重症筋無力症治療の現在とこれから．京都内科医会学術講演会．2024年11月28日．
京都．

[研究助成]

1. 小島雄太．文部科学省科学研究費 研究活動スタート支援「ブルトン型チロシンキ
ナーゼは重症筋無力症の新規治療標的となりうるか?」．研究代表
2. 能登祐一．文部科学省科学研究費 基盤研究(C) 「高密度表面筋電図法による運
動単位分離解析を用いた重症筋無力症の新規診断法の開発」．研究分担者

※欄内におさまらない場合は枠を広げて記入のこと。

※大学ホームページ等において公表することとなるので、秘密情報については記載しないこと。